



平成30年12月12日 立川市広報課

送付文書 計3枚

報道機関 各位

市民企画講座「海を渡ってきた銭」を開催します

たちかわ市民交流大学では、市民企画講座を開催しております。

遠い海の向こうからはるばる日本に渡ってきた宋銭や明銭が、日本の人々の暮らしに欠かせない基本通貨として使われた不思議について、お話を聞きます。

取材ならびに記事掲載のほど、よろしく願いいたします。

記

1. 名称 「海を渡ってきた銭」
2. 対象 一般市民（市外在住の方の参加も可能です）
3. 日時 平成31年1月15日、22日、2月5日、火曜日、
午後2時00分～4時00分
4. 場所 女性総合センター・アイム
5. 講師 池 享さん（一橋大学名誉教授）
6. 定員 40人（申込順）
7. 費用 受講料1,500円
8. 保育 あり（1歳～学齢前、事前申込み）
9. 申し込み 立川市生涯学習推進センター（TEL042-528-6872）
申し込み受付時間 8:30～17:15（月曜～金曜）

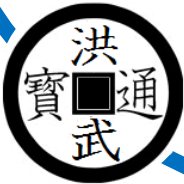
※別添チラシをご参照ください。

【問い合わせ】 立川市生涯学習推進センター 山口 智子

TEL042-528-6872

海を渡ってきた銭

◆◆日本経済の血液となった宋銭と明銭◆◆



講師：池 ^{いけ} 享 ^{すすむ} さん
(一橋大学名誉教授)



明銭の「永樂通寶」は織田信長の馬印のデザインに使われたおかげで、21世紀の日本に生きる我々の目にもなじみがあります。この永樂通寶は中国の明王朝第3代皇帝・永樂帝の時代に作られ、日本に輸入されて広く使われていたのです。

遠い海の向こうからはるばる日本に渡ってきた宋銭や明銭が日本の人々の暮らしに欠かせない基本通貨として使われた不思議、その解明に池 享さんが挑みます。

【日 時】2019年1月15・22日、2月5日(火)【3回講座】
午後2時～4時

【受講料】¥1500

【定 員】40名

【保 育】あり(1歳～学齢前・事前申し込み)

【会 場】女性総合センター・AIM 5F 第3学習室

【申し込み】2018年12月10日(月)より

生涯学習推進センター 042-528-6872



主催：たちかわ市民交流大学 市民推進委員会

《きらきらカード☆対象講座》

[講師紹介] 池 享 (いけ すすむ)

1950年新潟県生まれ。一橋大学名誉教授、歴史科学協議会代表理事。専門は日本中世史。

《著書》

『動乱の東国史 7 東国の戦国争乱と織豊権力』(吉川弘文館、2012年)

『日本中世の歴史 6 戦国大名と一揆』(吉川弘文館、2009年)

各回テーマ

日程	各回テーマ	内 容
1 / 1 5	中国銭の導入 (12世紀～13世紀前半)	律令国家の皇朝十二銭は10世紀後半には発行が停止され、米や布が貨幣として使われるようになった。12世紀には宋銭が輸入され、基本通貨としての役割をはたすようになった。
1 / 2 2	中国銭の定着 (13世紀半ば～15世紀)	中国銭は、商品経済の発展とともに民衆にも浸透し日常生活に欠かせないものとなった。さらに、貫高制という支配制度の基準にも採用されるようになった。
2 / 5	中国銭の変質と使用停止 (16世紀～17世紀前半)	16世紀になると撰銭(えりぜに)問題が発生し、中国銭の価値が低下して流通が滞るようになった。その最終的解決は、徳川政権の寛永通宝発行まで待たなければならなかった。

《会場への行き方》

※駐車場、駐輪場の用意はありませんので

ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

